

4本の柱ごとに主な事業の内容を紹介します

掲載順=種別(新:新規事業、拡:拡充事業、継:継続事業)・取り組み内容(事業名・予算額)



空き家を資産として活用するため各種セミナーを実施

新若者の市内定住・移住を支援するため、市内の新居へ引っ越した新婚夫婦およびパートナーシップ宣誓をしたカップルに支援金を助成(移住定住新生活応援事業・1000万円)
拡空き家台帳の整備のほか、空き家相談・セミナーの開催、空き家財道具片付けへの補助などを継続し、空き家および空

き地の活用を促進(空家等対策推進事業・272万円)
拡コロナ禍により関心の高まる地方移住を推進するため、住宅取得支援に加え、新たに免許取得費用を補助するなど支援内容を拡充(移住定住支援事業・3374万円)
拡移住・定住促進のため、転入者や子育て世代などが行う空き家リフォームに対する補助を拡大(空家活用等支援事業・1330万円)
継市内業者者を利用した住宅リフォームに対し、引き続き補助を実施(住宅リフォーム促進事業・1000万円)
新市内の空き家を交流や起業の場として活用する先進的なモデルとなる提案を募集(空家活用モデル事業・100万円)

2 コロナ禍における新しい未来に向けたまちづくり
 (1) 地域資源を生かした渋川への移住・定住を支援

継保育施設や学校において、子どもたちが安心して過ごせるよう、衛生用品の整備など、新型コロナウイルス感染症防止対策を継続(保育所等における新型コロナウイルス感染症防止対策・2160万円、新しい学校生活実践事業・2120万円(令和2年度補正予算))
新新型コロナウイルスの感染拡大や重症化予防の対策として、国が示すスケジュー

ールに基づき、迅速にワクチンの接種を実施(新型コロナウイルスワクチン接種事業・4億7938万円(令和2年度補正予算))



安全・安心かつ迅速にワクチン接種を実施

1 市民の健康を守るためのコロナ対応



特集 令和3年度予算
共生社会・新未来創造予算
 一般会計総額329億円

令和3年度 予算概要

- 令和3年度当初予算額(一般会計)
329億3,000万円
(前年度比▲29億5,000万円)
- 市民一人当たりの予算額(一般会計)
42万円(前年度比▲3万8千円)
※人口は、平成27年度国勢調査の確定値(78,391人)で算出
- 市債残高(一般会計・令和3年度末見込)
350億2,619万円
(令和2年度末見込との比較 ▲3億2,462万円)
- 市民一人当たりの市債残高
44万7千円
(令和2年度末見込との比較▲4千円)
- 基礎的財政収支(プライマリーバランス)
+5億600万円
(前年度比▲7億7,000万円)

令和3年度会計別予算額一覧

会計名	当初予算額		前年度対比
	令和3年度	令和2年度	
一般会計	329億3,000万円	358億8,000万円	▲8.2%
特別会計			
後期高齢者医療特別会計	11億9,788万円	11億5,768万円	3.5%
介護保険特別会計	91億7,338万円	90億9,906万円	0.8%
農産物直売事業特別会計	223万円	316万円	▲29.4%
伊香保温泉観光施設事業特別会計	1億2,294万円	2億7,597万円	▲55.5%
小野上温泉事業特別会計	3,279万円	3,420万円	▲4.1%
交流促進センター事業特別会計	1,778万円	1,481万円	20.1%
公営企業会計			
水道事業会計	32億5,331万円	30億2,884万円	7.4%
下水道事業等会計	56億7,111万円	55億6,948万円	1.8%
合計	524億142万円	550億6,320万円	▲4.8%

※国民健康保険特別会計を除く

予算編成の4本の柱

- 1 市民の健康を守るためのコロナ対応
- 2 コロナ禍における新しい未来に向けたまちづくり
- 3 財政健全化・事務の効率化に向けた取り組み
- 4 メモリアルイベントへの渋川市独自の取り組み

一般会計予算の概要
 令和3年度予算編成では、喫緊の課題である新型コロナウイルス感染症への対応と、コロナ禍において今やらなければならぬことを見定めました。また、誰もが互いを尊重し支え合う「共生社会」の理念を中心に置き、活力ある新しい未来を創造するための予算としました。
 編成に当たっては、コロナ禍により歳入の減少が見込まれる中、「事業レビュー」を実施し全ての事業を見直すとともに、「予算編成会議」により、組織横断的な予算編成に取り組みました。

令和3年度の基本方針
 令和3年度の予算は、左枠内の「4本の柱」を基本として、「共生社会・新未来創造予算」としました。誰一人取り残すことなく、誰もが安心して健康に暮らせるまち、また、子どもたちが健やかに成長するまちとなるよう、「共生社会実現のまち 渋川市」を推進するとともに、活力ある未来を創造するための取り組みを、積極的に進めていきます。

令和3年度一般会計予算規模は、329億3000万円、前年度比8.2割の減額となりました。また、3月定例会において議決された各特別会計、公営企業会計を合わせた予算規模は、524億142万円、前年度比4.8割の減額となりました。今回の特集は、一般会計予算の概要などの紹介により、令和3年度の市の取り組みをお知らせします。詳しくは、☎財務課(☎2414)へ。

4本の柱ごとに主な事業の内容を紹介します

掲載順=種別(新:新規事業、拡:拡充事業、継:継続事業)・取り組み内容(事業名・予算額)

⑤子どもたちの健やかな成長を支えるまちづくり
 保育料の「完全無料化」を引き続き実施。幼児教育・保育の無償化に伴う保育料の完全無料化などの独自支援・1億4686万円)
 新保育所、幼稚園などに防犯カメラなどの防犯設備を設置(園児を守る防犯対策強化事業・1242万円)
 令和2年度に引き続き、小学校の特別教室に空調機器を設置。また、トイレの洋式化改修も継続して実施(小学校特別教室空調機器整備事業・4050万円、小学校トイレ改修事

業・1億188万円)
 新教育現場で起こるさまざまな出来事に対して、専門的・客観的に助言のできる人材(スクールアドバイザー)を、要請に応じて小・中学校へ派遣(スクールアドバイザー事業・62万円)
 新児童・生徒、指導者用に整備するICT機器を学習環境の中で有効活用できるように、学校教育課内にGIGAスクール推進室を新設し、ICT教育アドバイザーなどを配置(教育ICT活用促進プロジェクト・6329



アレルギー対応食の提供が始まる東部学校給食共同調理場

2学期から特定原材料7品目に対応したアレルギー対応食の提供を開始(特定原材料7品目対応学校給食提供・580万円)
 英語教育の充実を図るため、英語指導助手(ALT)を各中学校に1人配置。小学校でも英語指導教員による授業を実施(英語教育充実事業・6075万円)
 通学路における安全対策工事としてグリーンベルト新設工事を継続して実施(通学路の交通安全対策事業・685万円)

新高齢者のフレイル予防を目的に、



身近な場所への健康遊具の設置費を助成

新身近な場所での健康づくりを進めるため、コミュニティ広場や地区集会所、公園などへ健康遊具を設置する費用を助成(地域の健康づくり推進事業・150万円)

赤城健康公園を活用した健康教室を新たに実施(フレイル予防推進事業・1029万円(介護保険特別会計))
 新ラジオ体操の普及を推奨し、講習会などを実施。合わせて、ラジオ体操に取り組み企業や団体へ資材を提



気軽に健康づくりを楽しめる場として整備した赤城健康公園

新介護職員初任者研修の受講者に対して受講料を補助(介護職員初任者研修支援事業・100万円)
 新介護現場での看取りに対応する環



いつでも誰でもラジオ体操ができる環境を整備

境整備を行う事業者に対し、県と協調し補助を実施(地域密着型サービス施設整備補助事業・350万円)
 拡成年後見制度の利用を促進するため、法人後見事業に係る初年度経費を補助(成年後見制度利用促進事業・123万円)
 拡認知症への理解を深め、患者やその家族が安心して地域で暮らすことを応援するための条例を制定(認知症総合支援事業・81万円(介護保険特別会計))
 拡コロナ禍でも安心・安全な検診を実施するため、予約制を導入するほか、受診率向上を目的に全対象者に対し受診シールを送付(がん対策事業・9085万円ほか)

④いつまでも健康で生き生きと暮らせるまちづくり

4本の柱ごとに主な事業の内容を紹介します

掲載順=種別(新:新規事業、拡:拡充事業、継:継続事業)・取り組み内容(事業名・予算額)

②コロナ禍における新しい未来に向けたまちづくり

新市内へ本社機能を移転する企業への助成を実施。また、従業員の市内への移住に対し補助を実施(本社機能移転促進事業・600万円)
 拡テレワークにより業務を行うためのサテライトオフィスの開設に必要な改修費などの一部を助成(サテライトオフィス誘致促進事業・310万円)
 新市内でのワーケーションを推奨するため、移住施策やサテライトオフィス誘致などと合わせたPRを実施(ワーケーション推進事業・94万円)



ワーケーションの推奨



サテライトオフィスの誘致



移住の促進

③誰もが輝ける共生社会の実現に向けたまちづくり

新市民やさまざまな団体などとのバリアフリーセミナーを開催(共生社会推進事業・619万円)
 社会にあるバリア(障害)を理解するバリアフリーセミナーを開催
 談のワンストップ機能を充実させるための体制を拡充(基幹相談支援センター機能の充実・1929万円)
 新保育所、幼稚園、認定こども園において、園児が遊びながら手話にふれあう機会を創出(手話あそび体験事業・5万円)



社会にあるバリア(障害)を理解するバリアフリーセミナーを開催



多くの市民が手話への理解を深める講座を実施

新・拡店舗や観光施設において、バリアフリーを目的とした改修や備品の購入を行う費用を助成(共生社会実現に向けた店づくり応援事業・60万円、ユニバーサルツーリズム推進事業・60万円、商店改装等助成事業・700万円)
 新医療用ウィッグなどの補正具購入に対する助成を行い、がんにかかった人の社会参加を支援(がん患者医療用ウィッグ・補正具購入助成事業・150万円)
 新乳がんの手術痕などをカバーするための入浴着について理解を深めるため、市内温泉旅館などに入浴着を



おもしろ入浴の推進のため入浴着を旅館などに配布

拡イベントの実施時における障害者優先席の設置や手話通訳者の配置などの共生社会を推進する取り組みに対し、補助額の加算を実施(にぎわいイベント創出事業・260万円)

4本の柱ごとに主な事業の内容を紹介します

掲載順=種別(新:新規事業、拡:拡充事業、継:継続事業)・取り組み内容(事業名・予算額)



市をPRする動画と写真のコンテストを実施
※上の写真は令和2年度動画コンテストの受賞作品

新市の魅力をPRする写真および動画作品のコンテストを実施し、入賞作品を市ホームページなどで活用(渋川市ふるさと写真・動画コンテスト事業・18万円)

(8)ふるさとに誇りを持つふるさとづくり



しいたけ原木となる広葉樹林の整備費を補助

新東日本大震災の影響により、しいたけ原木として出荷できず、伐採されていない広葉樹を伐採し、萌芽更新させ、利用するため、森林環境譲与税を活用して、伐採にかかる費用を補助(きのこ原木再生事業・440万円)

(7)活力ある未来に向けたまちづくり

継生涯学習や防災、子育て支援などの、多機能で利便性の高い地域の拠点となる古巻公民館を整備するため、実施設計に着手(古巻公民館整備事業・2550万円)
継JR渋川駅西側広場の整備工事に着手するほか、引き続き東側送迎駐車場の利用を促進。また、JR八木原駅自由通路および西側駅前広場の基本設計、アクセス道路の用地取得などを実施(JR渋川駅周辺整備事業・4540万円、JR八木原駅周辺整備事業・6612万円)
継新産業ゾーンを創出し、企業誘致を推進していくため、候補地におけるインフラなどに関する調査を実施(新産業立地推進事業・353万円)

継本市にゆかりのある先人の功績などを郷土の誇りとして後世に末永く継承していくため、偉人展や記念展を開催(ふるさと渋川再発見事業・92万円)
継二ツ岳の噴火による古墳時代の遺跡を市内外に発信するため、講座や現地ツアーを開催するほか、地中レーダー探査を実施し、新たな遺跡情報を把握(榛名山噴火関連遺跡等活用事業・341万円)
継市域全体の歴史を一体的に捉えることのできる施設(仮称)ふるさと歴史館の整備に向けて、基本構想策定委員会を開催(仮称)ふるさと歴史館整備推進事業・18万円)

4本の柱ごとに主な事業の内容を紹介します

掲載順=種別(新:新規事業、拡:拡充事業、継:継続事業)・取り組み内容(事業名・予算額)



道路の除草などを市と市民が協働で行い環境美化を推進

新こみの集積所を適切に管理するため、集積ボックスの購入や集積所の改修などに係る費用を補助するほか、ごみ出しルールやマナーに関する啓発看板を設置(環境衛生推進事業・650万円)
新渋川市もつたないの心を持って食品ロスの削減を推進する条例を制定し、食品ロスの削減に向けた意識を高めるための取り組みを、市民や事業者、関係団体などと連携して実施(食品ロス削減推進事業・108万円)
新除草、倒木処理、簡易舗装などの緊急を要する維持補修を、速やかに各行政セクターで実施できる体制・予算を整備(地域要望等緊急対応事業・750万円)
新地域住民による実施が困難な地域において、市と市民ボランティアが協働で道路の除草などの作業を実施し、道路の環

(6)快適な暮らし・生活を守るまちづくり

境美化を推進(ふるさと道路美化推進事業・108万円)
継免許を持たない高齢者の移動支援を拡充するため、タクシース事業者による買い物代行などの費用助成を新たに実施。また、引き続きタクシー券を交付するとともに、1乗車当たりの利用枚数を拡大(高齢者移動・生活支援事業・1570万円)
継北橋地区で開始したデマンドバスをより多くの人に利用したく、利用方法の周知を図るほか、本格導入に向けた検証を実施(バス交通デマンド化検証事業・992万円)



北橋地区で試行運転を継続するデマンドバスの利用を促進

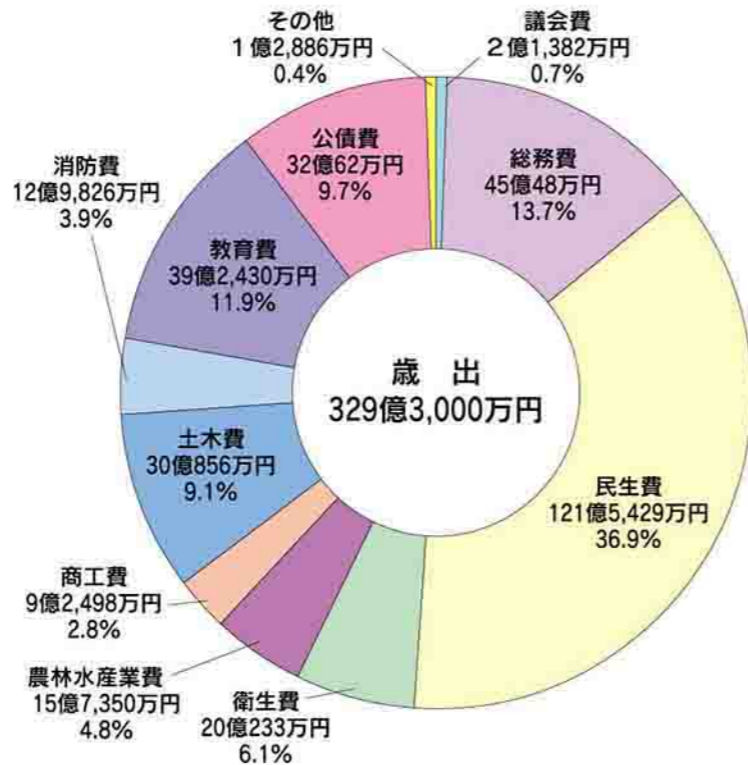
継台風や風水害など頻発する気象災害に備えるため、専門知識を有する気象防災アドバイザーを新たに設置。また、地域の防災力の向上を目的に、自主防災組織への助成を拡充(自主防災組織活動支援事業・650万円)

2 コロナ禍における新しい未来に向けたまちづくり

一般会計予算の内訳

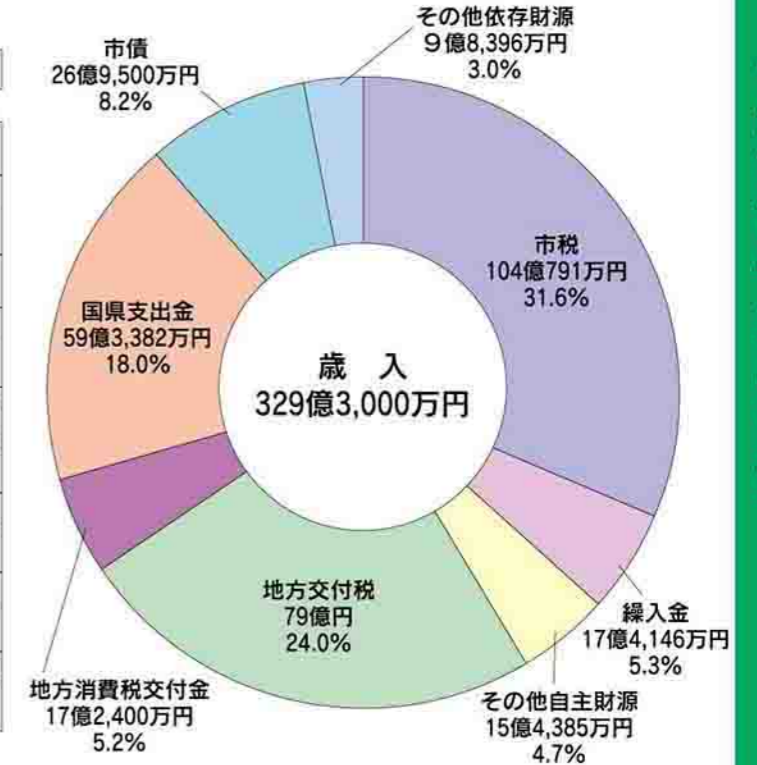
用語の説明・歳出

議会費	議員の報酬や、議会運営などに使われるお金
総務費	市の全般的な事務に使われるお金
民生費	子育て支援や福祉サービスなどに使われるお金
衛生費	市民の健康増進やごみの処理などに使われるお金
農林水産業費	農林業の振興や土地改良などに使われるお金
商工費	商工業や観光振興などに使われるお金
土木費	道路や公園の整備などに使われるお金
消防費	消防団活動、防災対策などに使われるお金
教育費	幼稚園、小・中学校、体育・文化活動などに使われるお金
公債費	借り入れたお金の返済に使われるお金
その他	労働費やその他の支出



用語の説明・歳入

市税	市民税や固定資産税など
繰入金	積み立てている基金などから繰り入れるお金
その他自主財源	財産収入やその他の収入
地方交付税	市の財政状況に応じて国から交付されるお金
地方消費税交付金	地方消費税の一定割合を県が市町村の人口などに応じて交付するお金
国県支出金	特定の事業を行うために国・県から交付されるお金
市債	国や金融機関などから借り入れるお金
その他依存財源	国から交付される地方譲与税や交付金など



4本の柱ごとに主な事業の内容を紹介します

掲載順＝種別(新:新規事業、拡:拡充事業、継:継続事業)・取り組み内容(事業名・予算額)



ホストタウン相手国との交流会などを開催

継ホストタウン相手国(ニュージールランドおよびモリタニア)のオリンピック、パ

4 メモリアルイベントへの渋川市独自の取り組み

ラリンピアンなどを招いての交流会、競技体験会を開催(東京2020オリンピック・パラリンピック推進事業・461万円)
 新JR渋川駅が開業100周年を迎えることから記念イベントを実施。また、観光客の利便性を高めるため、観光案内所の改修を実施(渋川駅100周年記念事業・50万円、渋川駅観光案内所運営事業・250万円)
 継群馬ステイネーションキャンペーン(アプターDC)と連動し、イベントなどを実施(観光宣伝実施事業・180万円)



窓口での手数料の支払いにキャッシュレス決済を導入

継既存の事業を見直し、事業の統廃合を実施(事業レビューの実施・10事業の廃止、28事業の見直し、その他経費の精査などにより、約1億8000万円を削減)
 新戸籍、住民票等の写し、印鑑登録証明書等の手数料の支払いにキャッシュレス決済を導入するなど、行政のデジタル化

3 財政健全化・事務の効率化に向けた取り組み

を推進(デジタルガバメント推進事業・1030万円のうち13万円)
 新新たな財源確保策として、市有施設などへのネーミングライツを導入(ネーミングライツの導入100万円(歳入見込額))
 新マイナンバーカードの普及促進のため、マイナンバーカード交付窓口を増設。また、窓口の混雑緩和のため、オンラインによる窓口予約を開始(個人番号カード等交付事業・3972万円)
 継上下水道事業の現状や課題、あり方など、経営安定化のための取り組みについて協議(上下水道事業の経営に関する協議会事業・20万円(水道事業会計))

渋川市の一般会計予算(329億3,000万円)を1カ月30万円の家計に例えてみましょう

支出

○食費・医療費・光熱水費などの生活費 (人件費、生活保護などの費用、物件費)	16万5,824円 (55.3%)
○ローンの返済 (借り入れたお金を返済する公債費)	2万9,155円 (9.7%)
○家の増改築などの費用 (道路の新設などの普通建設費)	1万7,161円 (5.7%)
○家・車の修繕費用 (道路の補修などの維持補修費)	8,338円 (2.8%)
○保険料・各種会費など (各種団体への補助金等の補助費など)	4万2,212円 (14.1%)
○子どもへの仕送り (特別会計への繰出金など)	3万2,761円 (10.9%)
○貯金 (基金への積み立て)	4,549円 (1.5%)

支出合計

30万円

収入

○給与収入 うち基本給	24万5,405円 9万4,818円
(市税)	(31.6%)
うち諸手当 (地方交付税、国県支出金など)	15万587円 (50.2%)
○パート収入 (使用料や手数料など)	1万4,178円 (4.7%)
○銀行からの借り入れ (国や銀行からの借り入れ)	2万4,552円 (8.2%)
○貯金の取り崩し (基金の取り崩し)	1万5,865円 (5.3%)

収入合計

30万円